

***NITELA (RHINONITELA)* (ケラトリバチ亜科) 日本に産す**

常 木 勝 次

Discovery of *Nitela (Rhinonitela) domestica*, a Philippine species,
in Central Japan (Hymen., Sphec., Larrinae)

By K. TSUNEKI

***CERCERIS GEBOHARTI* NOM. NOV.**

for *Cerceris boharti* Tsuneki, 1968, nec *C. boharti* Scullen, 1965

By K. TSUNEKI

生物研究 (福井) 第 XIII 卷 第 3-4 号 37~39 頁別刷

Reprinted from *The Life Study (Fukui)*, Vol. XIII, Nos. 3-4, pp. 37-39

October 30, 1969 g, h

Tenila domestica: Tsuneki, Etizenia, 20: 12, 1967.

Nitela sp. Haneda, Life Study, 12 (3·4): 55, 1968.

Nitela domestica: Menke, Mushi, 12 (10): 137, 1968.

♀. 体長 2.7 mm. 全体黒色, 触角先端赤褐; 口ひげ, 脚付節 (先端部黒) は黄褐; 触角鞭節基部数節および下面, 翅脈は褐ないし黒褐; 翅は透明。

単眼は直角二等辺三角形に配置, OOD:POD = 1:3, 頭部前面:Fig. 1, 同側面:Fig. 2, 下方より見ると中央稜は三角状に広がる (Fig. 3), 後頭稜は明瞭で頭下に達する。触角第 2・4 節は等長, 第 3 節はわずかに長く先端の幅の 2.3 倍, 以下の節は 11 節まで順次少しずつ短い; 頭頂における両眼間の距離は触角節 2+3+4 にほぼ等しい。前胸背の肩部は丸く, 後縁中央部くぼみ, その正中線に短縦稜がある, 中胸背前縁中央もくぼむ, 中胸側の前部および下部に点刻のある溝がある; 中節後面は切斷状で平ら, その上方・側方とも稜線によって囲まれる。腹部に尾域を欠く。脚の脛節刺は前・中脚で 1 本, 後脚で 2 本である。翅脈 (Fig. 4) は *Nitela yasumatsui* に近い。

顔面の彫刻は粗い網目状, 頭頂部では細かい, 顔面下部と頭楯にまたがる前方両側のくぼみは微小点刻をもち, その大部分に銀白毛を密生する。複眼後方部 (temple) は彫刻不明瞭, 下方に弱い横条がある。前・中胸背板と楯板は顔面より細かい網目状彫刻, 褐色の毛でやや疎らにおおわれる, 中胸側は滑沢, よく光るが下方では光輝は鈍る, 中節背は縦条を主とした網目模様, *Nitela yasumatsui* よりややあらい, その側面に縦条, 後面に横条, 共にかなり強く, ややあらい。腹部は点刻を欠き, 光輝に富む。

標本: 1 ♀, 長野県上伊那郡長谷村宇津木, 13. VIII. 1968, 羽田義任採集。

付記 なお台湾で岩田博士の観察した蜂は穴の直径 2 mm ほどの細い竹筒に造巣し, チャタテムシの若虫を prey として狩ったという。獲物に対する卵の産付位置は *Tachysphex* など他の Larrinae と同様, また 1 巣には常に 1 育房しか造らず, 筒の閉鎖には種々の粒状物を積み上げたということである。

このハチは非常に小さいから, うまく造巣場所 (柱の虫穴も利用する) でも見つけない限り, 狙って採れるものでない。むしろ sweeping に期待したほうがよいように思われる。ただ岩田博士は述べていないが, このハチが他の *Nitela* のように, 柱の上などを足早に歩行する習性があるかもしれぬから, そういう点に注意するとよいと考えられるが, この点はまだわかっていない。なお網に入った場合コバチ類と区別するには, これでは触角が長いことに注意すればよいであろう。

CERCERIS GEBOHARTI NOM. NOV.

for *Cerceris boharti* Tsuneki, 1968, nec *C. boharti* Scullen, 1965

By K. TSUNEKI

Through the courtesy of Dr. Herman A. Scullen, Professor Emeritus of the Oregon State University, I knew that *Cerceris boharti* Tsuneki (Trans. Shikoku Ent. Soc., 9 (4): 107, 1968) had been preoccupied by *Cerceris boharti* Scullen (Proc. U. S. Nat. Mus., 116: 345, 466, 1965). I want to rename the species as above basing on my original intention to dedicate the trivial name to Dr. G. E. Bohart, the collector of the type specimen.

四国昆虫学会会報 9 巻 4 号 107 頁に記載した琉球産ツチスガリの 1 種の種名, *Cerceris boharti* Tsuneki, は北米アリゾナ産の *Cerceris boharti* Scullen に先取されていることがわかったので, 上記のように改名した。和名は ボハートツチスガリ としたい。